

南米の日本語教育実践報告

107

【アルゼンチン】 山本カリーナ(在亜日本語教育連合会日本語教育センター)

日本語教育実践報告（アルゼンチン）

－日本語教師養成講座－

山本カリーナ
在亜日本語教育連合会
日本語教育センター

〔キーワード〕 在亜日本語教育連合会 日本語教師養成講座 ブエノスアイレス日亜学院

〔要 旨〕

アルゼンチンでは、継承日本語教育の学習者は減少傾向にある。2001年のデフォルトによる経済危機や毎年のインフレなど、経済的な要因も考えられるが、まずはスペイン語、英語を習得後のプラスアルファの言語として、日本語が位置付けられていることが起因していると思われる。他方、外国語としての日本語学習者は、増加している。日本文化やスポーツ、またアニメや漫画などのサブカルチャーを通して、日本に興味を持ち、日本語を勉強し始めることが多い。

現在、在亜日本語教育連合会を中心として各日本語学校が協力し、日本語や日本文化の普及に努めている。日本に興味を持ち、好きになってくれる学習者が増えることで、両国の交流が深まり、かけ橋となる人材が育成されることが期待される。また、今後も更に連携を深め、日系社会の活性化やアルゼンチン社会への貢献に繋がることを願う。

1. アルゼンチン日本語教育事情

継承日本語教育と外国語としての日本語教育が共存している状態である。

継承日本語教育として、日系子弟の学習者における割合は40%程度。学習目的は小学校低学年までの場合、両親の希望や子供が安らげる場所としての意味合いがある。主に日本文化を感じられる環境で、日系人コミュニティの一員として育てたいとの親の意向がうかがえる。

中高学年では、将来において日本への研修や留学に役立てることや、日本文化を理解することがある。学習機関としては、日本人会設立による日本語学校が多い。

日本人会による日本語学校の特徴として、都市部近郊の日本語学校では、生徒数が比較的多く、カリキュラムを基に授業が行われている。一方、地方校の場合は、生徒数も少なく、カリキュラムのないまま、複式授業が行われていることが多い。教師不足もその一因であろう。また、日系子弟学習者対象から非日系学習者対象にシフトしている学校では、生徒の増加が見ら

れる。

現在、アルゼンチン国内の日本語教師数は 192 人、日本語学習者数は 3571 人となっている。

外国語としての日本語教育の場合、対象は非日系であるがその割合は 60%程度であり、多くは成人である。留学や仕事を目的とした学習者よりも自己啓発や趣味的なことを目的とした学習者の方が多いようである。学習機関としては、大学の公開講座や日本語学校の夜間、または土曜クラスがある。

1.1 社団法人在亜日本語教育連合会（Centro de Cultura e Idioma Japonés en la Argentina）

1960 年 10 月、日系日本語学校、日本語教師を対象に支援活動を行うことを目的として、設立された。現在は、非営利社団法人で、国内 20 校とウルグアイ 1 校の日本語学校が、加盟している（図 1 参照）。

通称は「教連」または「KYOREN」である。2017 年 10 月外務大臣表彰を受賞。



図 1

1.1.1 アルゼンチンにおける日本語教育と教連

1940 年 3 月、領事館指導下に教育連盟を結成。各日本語学校間の連絡、その他教育業務を遂行。1945 年、ア国第二次世界大戦参戦に伴う敵性国財産管理令により、日本語学校は公的活動を停止。しかし、学校関係者の努力により、非公式ながら 1947 年同法令解除に至るまで継続された。

1952 年 4 月、第一回教育連絡会議開催。近郊や地方の 10 校の代表・教師の参加のもとに会の目的が協議の上定められた。その後、1960 年に至るまで各年一回、教育連絡会議が開催され、1960 年 7 月 24 日、第 9 回教育連絡会議にて日本語教育連合会設立案が提起され、規定草案委員選出。1960 年 10 月 2 日、在アルゼンチン日本語教育連合会設立総会、1979 年 3 月にア国法人格の認可を受け、今日まで日本語教育の育成と普及を行ってきた。

1.1.2 教連開催行事と最近の参加者数

全国日本語教師研修大会（年 1 回、3 日間）	2017 年 65 名参加
小学生朗読暗唱大会（対象：7 歳から 12 歳）	2017 年 30 名参加
スピーチコンテスト（対象：13 歳以上）	2017 年 40 名参加
作文大会（対象：7 歳から成人）	2017 年 8 校 47 作品参加
日本語能力試験実施	2017 年 7 月 99 名受験 2017 年 12 月 523 名受験
その他、スポーツイベント（ピンポン大会 8 校 120 名、運動会 6 校 323 名参加）	

1.1.3 日本語教育センター関連

日本語教師養成講座（2 年間）	
中級学習者指導講座（年に 1 回、2 日間）	
アルゼンチンときめきレベルテスト N6、N7 作成、実施	2017 年 11 月 N6 202 名、N7 338 名受験
アルゼンチンときめき会話テスト（A1～B2 レベル）作成、実施 （JFS 準拠ロールプレイテストを行い、CEFR A1～B2 で評価する。）	2017 年 5 月 4 名受験

1.2 日本語教師養成講座関連

1.2.1 日本語教師養成講座開設の目的と設立経緯

初級を教えられる日本語教師の育成を目的としている。

設立の経緯としては、20 数年前から、二世会という勉強会があり、数名程度から始めて、毎年の研修会を行う規模になり、日本語の指導法を習得しようという土台があった。本邦研修を修了した教師や国際交流基金の専門家、JICA 日系ボランティアなどに講師を務める。ただ、このような研修会は、年に 1、2 回程度での長期的継続的な研鑽を目的としたものである。そこで、未経験の教師が実際に教壇にたてるまで、知識や技術を体系的に習得できる講座が必要とされ、国際交流基金や JICA 事務所の協力を得て、開講に至った。

1.2.2 講座の実績

現在までの養成講座受講人数については、表 1 を参照。

表 1 養成講座受講人数

	参加者	最終 受講者数	認定証・ 修了証取得	修了証のみ 取得	教授経験有
第 1 回養成講座	30	22	18	2	14
第 2 回養成講座	14	10	7	3	7
第 3 回養成講座	17	12	11	1	9
第 4 回養成講座	13	7	7	3	7
第 5 回養成講座	12	9	4	3	5

1.2.3 講座の現在（2017 年 8 月）

現在は、第 6 回日本語教師養成講座を開講中である。講師 15 名、受講生 12 名。スクーリングは、夏期 12 日 x2 回、冬季 6 日 x2 回、9:00 から 17:00 まで（昼休憩 1 時間）

講義を行い、通信の課題、成人・年少者実習とともに、300 時間の講座となっている。

アルゼンチン文部省などの認可を得た正式なものではないが、講座をすべて履修した者に対しては講座の修了証、更に成績等について一定の基準を満たした者に対しては、認定証を授与している。



1.3 （私立）ブエノスアイレス日亜学院

1927年2月在亜日本人会付属日本語教習所として創立された。

アルゼンチンの日本語学校では唯一、ブエノスアイレス市から認可を受けている公教育機関であり、小学部7年制と中高等部5年制の義務教育を受けられる。また、幼稚園の2歳児クラスから成人クラスまで、年齢的にも内容的にも多様なクラス構成が特徴である。まず、平日の幼稚園、小学部、中高等部、成人集中クラス（夜間）があり、その他に土曜日のみの幼稚園、小学部、中高等部、成人レギュラークラスが開講されている。さらに、土曜文化クラスでは、成人向けクラスとして、生け花、書道、漫画、墨絵、折り紙、太鼓、篠笛、編みぐるみ、家庭料理、日本の歴史、日本文学、寿司、英会話があり、年少者向けクラスとして、アクロバット、沖縄舞踊、折り紙、ギター、スケート、体操、太鼓、演劇があります。

各コースの在籍者数については、表2を参照。

2017年10月外務大臣表彰を受賞。

表 2 ブエノスアイレス日亜学院 在籍者数（成人はのべ人数）（2017年）

平日	幼稚園	175
	小学部	335
	中高等部	134
	成人集中コース	158
土曜日	幼稚園	35
	小学部	94
	中高等部	134
	成人レギュラーコース	516
	文化クラス（年少者向け）	123
	文化クラス（成人向け）	242